

国立国語研究所学術情報リポジトリ

方言終助詞の意味分析：

富山県砺波方言の「ヤ/マ」「チャ/ワ」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 優 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002906

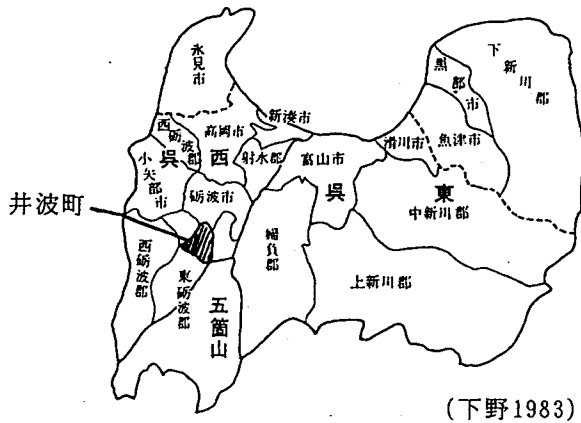
方言終助詞の意味分析
—— 富山県砺波方言の「ヤ／マ」「チャ／ワ」 ——

日本語教育センター第1研究室
井上 優

1. はじめに

本発表では、方言の終助詞の意味分析について述べる。具体例としては、発表者の母方言である富山県砺波（となみ）方言の終助詞「ヤ／マ」「チャ／ワ」をとりあげる。

砺波地方は富山県の南西部に位置し、砺波市・小矢部市・東砺波郡・西砺波郡からなる。発表者は1962年東砺波郡井波町に生まれ、高校（砺波市）卒業まで井波で育った。（両親と弟の4人家族。父親は富山県婦負（ねい）郡八尾町、母親は東砺波郡福野町の出身。注1）



（下野1983）

「ヤ／マ」「チャ／ワ」はいずれも砺波方言における主要な終助詞であり、性別や年齢を問わず広く日常的に用いられる。

- (1) a. ハヨ オキテヤ。 (早くおきてよ)
- b. ハヨ オキテマ。 (早くおきてよ)
- (2) (A、Bが目をこすっているのを見て)
- A: アンタ ドー シタガ? (あなた、どうしたの?)
- B: a. 目ニ ゴミ 入ツタガヤチャ。 (目にゴミが入ったんだよ)
- b. 目ニ ゴミ 入ツタガヤワ。 (目にゴミが入ったんだよ)

（以下、方言形はカタカナ、共通語形はひらがなで表記）

(1) (2)に示したように、共通語の終助詞で「ヤ／マ」「チャ／ワ」に最も近い意味を表すのは「よ」であるが、(1a)と(1b)、(2a)と(2b)はそれぞれ意味が異なる。その意味の違いを分析することは、個別方言における類義表現の意味記述という意味でも、また終助詞の意味に関する方言間の比較対照という意味でもきわめて興味深い。

本発表における分析は主に発表者の内省にもとづくが、井波在住のネイティブ・スピーカーの内省も多少参考している。自然談話の分析、あるいは男女差・世代差・場面差・文体差などを考慮に入れた社会言語学的な視点からの分析も、終助詞の意味を考える上ではきわめて興味深い。それらの分析のたたき台として現時点で必要なのは、やはりネイティブ・スピーカーの内省にもとづく、きめこまかな視点からの意味記述である。

2. 「終助詞の意味を分析する」とは？

「ヤ／マ」「チャ／ワ」の意味について考える前に、意味的に関連する共通語の「よ」を例に、「終助詞の意味を分析する」ということについて少し述べておきたい。

「よ」の意味は次のように説明されることがある。

自分の判断や命令や誘いかけなどを、聞き手に主張したり念を押ししたり押し付けたりする。（『日本語教育事典』：p.415）

〈おしつけ／念おし〉という説明は我々の日常的な言語使用感覚に直接訴えるという意味でわかりやすいし、「よ」の重要な側面をとらえていることも確かである。次の例などは特に〈おしつけ／念おし〉という説明が‘はまる’ケースであろう。

(3) さあさ、召し上がってください。家内の料理は最高ですよ。（美味しんぼ41）

(4) (おかずはいらぬ、ご飯だけ分けてほしいとする聞き手に)

本当におかずはいらぬの？ お魚も煮物も残っているのよ。（同12）

しかし、一歩すすんで、

言語のシステムの中での〈おしつけ／念おし〉とはどういうことか？

ということについて考えてみよう。〈おしつけ／念おし〉という説明がある種のわかりやすさを有するのとは逆に、この問いに答えることは決して容易なことではない。しかし、「よ」の意味を説明しようとするかぎりは、この問いに何らかの形で答えなければならない。それはちょうど、「『た』は過去を表す」と言ったら「過去＝発話時より前の時点」のような分析的な説明を与えねばならないのと基本的には同じことである。

つまり、「よ」の意味を分析するとは、単に「『よ』があると、例えば〈おしつけ／念おし〉というニュアンスが生ずる」ということを記述することではなく、そのニュアンスに分析的な説明を与えることである。（「よ」の意味に関する最近の研究はおおむねこのようなスタンスにたっている。注2）

以上のことを念頭において、「よ」の意味について少し具体的に考えてみよう。

(5) A：そろそろ会議を始めましょうか。

B：井上さんがいらっしやいませんよ↑。（よ↑：上昇調の「よ」）

C：さっきまでそこにいらしたんですよ↑。

D：忘れ物でもとりにいかれたんですよ↓。（よ↓：上昇しない「よ」）

(5)から「よ」を除いた場合、Bの発話は少し意味がかわり、CとDの発話はどこか不自然になる。

(6) A：そろそろ会議を始めましょうか。

B：井上さんがいらっしやいません。

C：?さっきまでそこにいらしたんです。

D：?忘れ物でもとりにいかれたんです。

「よ」が付加されない(6B)は単に聞き手に「井上がいない」という情報を伝えるだけの文であるが、「よ」が付加された(5B)には「情報伝達」以外のプラスアルファの意味がある。同じことは次の例についてもあてはまるだろう。

(7) A：Bさんは中国に赴任されたことがあるそうですが、中国のどちらですか？

B：（「え？」という表情で）私ですか？北京ですよ↑。 cf.北京です。

(8) A：お久しぶりです。

B：失礼ですが、どちらさまでですか？

A：わかりませんか？井上ですよ↓。 cf.井上です。

「よ」の意味分析の第一歩は、「よ」によって生ずるプラスアルファの意味をできるだけ具体的に（場合によっては多少誇張して）把握することである。例えば、(5B)(7)(8)におけるプラスアルファの意味は次のようにとらえることができるだろう。

(9) B：井上さんがいらっしやいませんよ↑。 [会議を始めていいんですか？]

(10) B: (「え?」という表情で) 私ですか? 北京ですよ↑。[それが何か?]

(11) A: わかりませんか? 井上ですよ↓。[そう言われると何か思いあたることはありませんか?]

「よ」の意味分析の第二段階は、これらのプラスアルファの意味をできるだけ一般的な概念を用いて分析的にとらえなおすことである。例えば、(9)の「会議を始めていいんですか?」、(10)の「それが何か?」というニュアンスは次のように分析することができる。

(12) 「会議が始まろうとしている」という状況にあって、「井上がいない」ことがどう認識されているかが十分に明確でない。

(13) 「赴任先が北京である」ということがこの場面とどう関連するのかが十分に理解できていない。

また、(11)の「そう言われると何か思いあたることはありませんか?」というニュアンスは次のように分析することができるだろう。

(14) 「A=井上」ということはその場ではまだ認識されていないが、そのことが情報として与えられれば、それを基準として、既成知識やその場の認識を「A=井上」ということと矛盾しない形に調整することができるはずである。

「よ」の基本的な意味を分析するとは、以上のような分析をいろいろなケースについておこない、できるだけ適用範囲の広い一般的な仮説にまとめることである。ここでは暫定的に次のような仮説をたててみよう(注3)。

(15) a 「よ↑」は、「話し手と聞き手を取りまく状況(既成知識やその場の認識を含む)を基準とした場合、当該の情報がその状況とどう関連するかが十分に明確ではない」という心的態度を表す。

b 「よ↓」は、「当該の情報を基準として、既成知識やその場の認識を調整しなければならない」という心的態度を表す。

この仮説についてここでくわしく論ずる余裕はないが、要は、「よ」がある場合は、単なる情報のやりとりとは別に「当該の情報と話し手と聞き手を取りまく状況とを矛盾なく関連づけなければならない」という要請が加わるわけである。(おしつけ/念おし)というニュアンスが生ずることがある((7)などはくおしつけ/念おし)とはいえない) のもこのためである。

(15)はあくまで暫定的な仮説であるが、仮に何らかの形で「よ」がもつニュアンスが一般的に説明できたとしよう。しかし、これで「よ」の意味分析が終わったわけではない。我々は、先にあげた(5C)(5D)のように「よ」が必須のケース、また次の(16)(17)のように「よ」が不自然なケースについて、体系的な説明を与えなければならない。

(16) A: Bさんは中国に赴任されたことがあるそうですが、中国のどちらですか?

B: (「え?」という表情で) 私ですか? 北京ですよ↑。

A: そうですか。いや、実は今度私も中国に赴任することになりましたね。

B: どちらですか?

A: 上海です(??よ↑)。cf. (困った表情で)それが上海ですよ↓。

(17) (卓球大会で。井上が顔見知りでない大会役員に選手名簿を渡した。)

役員: 代表者はどなたですか?

井上: 私です(??よ↑/??よ↓)。

さらに、我々は、「よ」と「よ」以外の終助詞との意味上の類似点と相違点も体系的に説明しなければならない。

(18) a. あなた、顔にセッケンがついてます{よ↑/??ね↑}。

b. あなた、メガネをかえました{ね↑/??よ↑}。

(19) 「ヨーイドン」といったらスタートしてください{よ↑/ね↑}。いいですか。いきます{よ↑/ね↑}。ヨーイ...ドン!

(18)では「よ↑」「ね↑」のいずれか一方しか用いることができないが、(19)では両者の意味の違いは微妙である。

終助詞の意味を分析するとは、以上あげたような終助詞をめぐるさまざまな現象に体系的な説明を与えることができる枠組み(理論)を構築することである。さらにいえば、我々の目標は、いわゆるモダリティ表現の意味の普遍性と個別性(何が言語普遍的で何が個別言語的か)を体系的に説明する理論を構築することであり、その目標を達成するためには、当然、日本語の共通語だけではなく、方言や外国語も視野に入れた分析をおこなわなければならない。(最近のモダリティ研究はおおむねこのようなスタンスにたっている。)以下で述べる方言の終助詞の意味分析もその中で位置づけられる。

3. 砺波方言の「ヤ/マ」「チャ/ワ」の基本的な性質

まず、「ヤ/マ」「チャ/ワ」の基本的な性質について述べる。

冒頭でも述べたように、「ヤ/マ」「チャ/ワ」に最も近い意味を表す共通語の終助詞は「よ」であるが、「よ」と「ヤ/マ」「チャ/ワ」とでは基本的な性質が異なる。すなわち、「よ」は平叙文・勧誘文・命令文・疑問文のいずれにも付加可能な‘汎用の’終助詞であるが、「ヤ/マ」は命令文(依頼文を含む)にしか、「チャ/ワ」は平叙文にしか付加できない。(* は当該の文や形式が不適格であることを表す。)

- (20) a. ハヨ オキッシャイ {ヤ/マ/*チャ/*ワ}。
b. 早く起きなさいよ。(命令文)
- (21) a. ソンナガヤ {チャ/ワ/*ヤ/*マ}。
b. そうなんですよ。(平叙文)
- (22) a. ハヨ イコー {*チャ/*ワ/*ヤ/*マ}。 cf. ハヨ イコマイケ。
b. はやく行こうよ。(勧誘文)
- (23) a. ナン シトンガヤ {*チャ/*ワ/*ヤ/*マ}。 cf. ナン シトンガイ。
b. 何やってるんだよ。(疑問文)

平叙文であっても「ヤロー」(だろう)に「チャ/ワ」は付加できない。この点でも「チャ/ワ」は「よ」と異なる。

- (24) a. (雪は)明日ニハ ヤムヤロー {*チャ/*ワ}。
cf. アノ人、結婚セツシャルラシー {チャ/ワ}。
b. (雪は)明日にはやむだろうよ。

このような「よ」(「ね」も)の汎用性と「チャ/ワ」「ヤ/マ」の非汎用性は、終助詞の意味体系について考える上できわめて興味深い。

4. 「命令文+ヤ」「命令文+マ」

では、「命令文+ヤ」と「命令文+マ」の意味の違いから考えよう。

結論からいえば、砺波方言と共通語との間には次のような対応関係が成立する。

- (25) 命令文+ヤ = 命令文+よ↑
命令文+マ = 命令文+よ↓

つまり、共通語では「よ」のイントネーションの違いで表される意味の違いが、砺波方言では終助詞の形式の違いで表されるわけである。

次の例を見られたい。

- (26) (12時になった)
- A1: 午後は12時45分に仕事を始めてください。
B: たまには1時くらいまで休ませてくださいよ↓。
A2: わかりました。じゃ、1時になったら仕事を始めてくださいよ↑。

(1時になった)

A3: 1時になりましたから、仕事を始めてくださいよ↑。

(しかし、Bはなかなか仕事を始めようとしない)

A4: ちょっと、1時になりましたから、仕事を始めてくださいよ↓。

(結局Bは1時半すぎになってやっと仕事を始めた)

(その日の夕方)

A5: 困りますねえ。1時と約束したんだから、ちゃんと1時に仕事を始めてくださいよ↓。

(26)では、六つの命令文がそれぞれ少しずつ異なる意味あいでも用いられている。その違いを談話の展開との関連でまとめれば次のようになる(井上1993参照)。

(27)

A1: Aの意向の提示

B: Aの意向をかえるように求める説得

A2: 合意内容の確認

A3: 動作を実行すべきタイミングにあることを知らせるゴーサイン

A4: 動作を実行すべき時に実行しない聞き手に対する催促

A5: 動作を実行すべき時に実行しなかったことに対する非難

このうち、「よ↓」が付加されたB(説得)、A4(催促)、A5(非難)は、「話し手の意向と聞き手の意向とが一致しない」「聞き手が動作を実行すべき時に実行しない」「聞き手が動作を実行すべき時に実行しなかった」というように、「その時点で話し手の意向どおりに事態が展開していない」ことを受けて発される命令文である。この意味で、「命令文+よ↓」は、

(28) 〈話し手の認識〉と〈聞き手の認識/現実の状況〉との間にギャップがあるという想定のもとで、「話し手の要求内容を基準にして、聞き手の認識や現実の状況を修正しなければならない」とする命令文だといえる(仮説(15)のb参照)。

これに対し、「よ↑」が付加されたA2(確認)・A3(ゴーサイン)は、

(29) 〈話し手の認識〉と〈聞き手の認識/現実の状況〉の間にはギャップがないはずである

という想定にたちつつも、「その場の状況を基準にして考えるかぎりには、話し手の意向が聞き手に十分に認識されているかどうかがいまひとつ明確ではない」として発される命令文である(仮説(15)のa参照)。この場合、「話し手の要求は妥当な要求として認められるはずである」「ゴーサインを出せば動作は実行されるはずである」という見込みのもとに、要求内容や「現在動作を実行すべきタイミングにある」ことの確認がなされるのであり、聞き手の認識や現実の状況の修正を求めるといった意味あいはない。

「命令文+よ↑」「命令文+よ↓」のこのような意味の違いは、否定命令(禁止)の場合にはより明確な形で現われる。

(30) a. そんなこと言わないでよ↑。

b. そんなこと言わないでよ↓。

(30a)は「今後そんなことは言わない」よう聞き手に念をおすための文であるが、(30b)は聞き手が言った内容に対して異議を申し立てるための文である。

以上述べたことは、そのまま砺波方言の「命令文+ヤ」「命令文+マ」にもあてはまる。すなわち、〈話し手の認識〉と〈聞き手の認識/現実の状況〉との間にギャップはないはずであるという想定のもとでは「命令文+ヤ」が用いられ、両者の間にギャップがあるという想定のもとでは「命令文+マ」が用いられる。(26)(30)を砺波方言に訳したものを以下に示す(注4)。

(31) (12時になった)

A1: 午後ハ 12時45分ニ 仕事 始メテ^ウ。

B : タマニハ 1時クライマデ 休マセテマ。

A2: ワカッタチャ。 ジャ、 1時ン ナツトラ 仕事 始メテヤ。

(1時になった)

A3: 1時ニ ナツサカイ、 仕事 始メテヤ。

(しかし、 Bはなかなか仕事を始めようとしな)

A4: 1時ニ ナツガヤサカイ、 仕事始メテマ。

(結局 Bは1時半すぎになってやっと仕事を始めた)

(その日の夕方)

A5: 1時ユーテ 約束 シタガヤサカイ、 チャント 1時ニ 仕事 始メテマ。

(32) a. ソンナコト イワッシャナヤ。

b. ソンナコト イワッシャナヤ。

〈話し手の認識〉と〈聞き手の認識／現実の状況〉との間のギャップの有無によって命令文に付加可能な終助詞が異なるという現象は、他の方言や外国語にも観察される可能性がある。

5. 「平叙文+チャ」と「平叙文+ワ」

5.1. 「チャ/ワ」と「よ↓」

「命令文+ヤ」「命令文+マ」の意味は、共通語の「命令文+よ↑」「命令文+よ↓」に対応する形でとらえることができる。したがって、砺波方言を母語としない人に意味を説明することもそう難しいことではない。これに対し、「チャ/ワ」は、それぞれに対応する形式が共通語にはないため、その分説明も難しくなる。

まず、「チャ/ワ」は基本的には「よ↑」よりも「よ↓」に近い意味を表す。

例えば、共通語の「平叙文+よ↑」は、

(33) さあ、そろそろ帰るよ↑。

のように勧誘的な意味あいでも用いられることがあるが、砺波方言の

(34) ソロソロ 帰ル {チャ/ワ}。

は、

(35) (私または第三者は) そろそろ帰るよ↓。

という意味であり、勧誘的な意味あいはない。実際、(34)は(35)と同様、聞き手の行動をうながす「サア」を加えることはできない。

(36) a. サア、ソロソロ 帰ル {ヨ↑/ゾ↑/??チャ/??ワ}。

b. さあ、そろそろ帰る {よ↑/??よ↓}。

また、共通語の「~のだよ↑」は、「聞き手も知っているはずの情報がこの場でどう認識されているか十分にわからないとして、聞き手にあらためて言いかせる」というニュアンスで用いられることがあるが、「チャ/ワ」にこのような用法はない。

(37) a. あなたは痛風なんですよ↑。そんなに肉ばかり食べてはいけませんよ↓。

b. アンタ 痛風ナガヤ {ヨ↑/ゼ/??チャ/??ワ}。ソナ 肉バッカ 食べ
たらアカンチャ。(ガヤ: 共通語の「のだ」)

「チャ」「ワ」を用いた

(38) アンタ 痛風ナガヤ {チャ/ワ}。

は、共通語の

(39) あなたは痛風なんですよ↓。

と同様、あくまで聞き手に「痛風である」ことを知らせる文である。

5.2. 「ガヤ+チャ」と「ガヤ+ワ」

「チャ」と「ワ」の意味の違いは、これらが「ガヤ」（共通語の「のだ」）に付加された場合（すなわち「ガヤ」の意味と結びついた場合）に最も顕著な形で現れる。

(40) (A、Bが目をこすっているのを見て)

A: アンタ ドー シッシャッタガ? (あなた、どうしたんですか?)

B: a. 目ニ ゴミ 入ッタガヤチャ。

b. 目ニ ゴミ 入ッタガヤワ。 (目にゴミが入ったんですよ!)

まず、「チャ」を用いた(40a)、及び共通語の「目にゴミが入ったんですよ!」は、

(41) それが/実は/本当のことをいうと 目にゴミが入ったんですよ!。

という知識表明(田野村1990)の解釈、正確に言えば「わかっているがそれまで言わなかった」情報をオープンにするという解釈と、

(42) きっと/たぶん 目にゴミが入ったんですよ!。

という推量判断(的断定)の解釈が可能である。一方、「ワ」を用いた(40b)は推量判断の解釈のみが可能であり、知識表明の解釈はできない。実際、「それが」「実は」などに相当する表現がある場合は「ワ」は使えない。

(43) A: ドー シッシャッタガ?

B: ソンガ/実ハ 目ニ ゴミ 入ッタガヤ {チャ/??ワ}。

共通語でも

(44) A: どうしました?

B: どういうわけか、足の親指のつけ根が痛いんですよ!。

(45) A: 少し飲んでいきませんか?

B: もうしわけありませんが、今日は車なんですよ!。

(46) a. あの人の、結婚されるらしいんですよ!。

b. あの人の、結婚されるそうなんですよ!。

のような例では知識表明の解釈しかできないが、このような例を砺波方言に翻訳する場合は「チャ」を用いなければならぬ。

(47) A: ドー シタガ?

B: ナンヤシランケド、足ノ 親指ノ ツケ根 痛イガヤ {チャ/??ワ}。

(48) A: チョッコ 飲ンデカレン?

B: モーシワケ ナケレド、今日 車ナガヤ {チャ/??ワ}。

(49) a. アノ人、結婚セツシャル ラシーガヤ {チャ/??ワ}。

b. アノ人、結婚セツシャル ソーナガヤ {チャ/??ワ}。

また、同じ推量判断を表す場合でも、「ガヤ+チャ」と「ガヤ+ワ」とでは多少ニュアンスが異なる。

(50) A: 井上サン、ナン オイデンチャー。(井上さん、来ないねえ) (注5)

B: a. 雪 デカイト ツモツテ、コレンガヤチャ。

b. 雪 デカイト ツモツテ、コレンガヤワ。

(雪がたくさんつもって、来られないんだよ!)

「ガヤ+ワ」を用いた場合は、基本的には「その場で推論した結果」を述べる文になる。それに対し、「ガヤ+チャ」の方は、

(51) この場面においては「雪がつもって来られない」という可能性を想定すれば十分である

というニュアンスがある。このニュアンスは、共通語の「まあ、パチンコでも、弓でも同じことさ」(国立国語研究所1951)における「既定の事実であって、今さらどうにもならない、当然の事、自明のこととして言い表す。それについてとやかくいう事はできぬ、というような傍観的な、なげやりのニュアンス」(同)にも通ずるところがある。

5.3. 「チャ」「ワ」の基本的な機能

さて、以上のような現象は「チャ／ワ」のどのような性質から派生されるのだろうか。ここでは次のような仮説を提出する。

- (52) a 「ワ」は、当該の情報が「話し手の認識世界においては真である」情報として提示されていることを表す。
b 「チャ」は、当該の情報が「既定の事実」、すなわち「話し手の認識をこえて無条件に真であるとしてよい（と判断される）」情報として提示されていることを表す。

共通語のノダ文において、

(53) 私が知る（認識している）かぎりでは、これは目にゴミが入ったのだ。
のように「話し手の認識世界に話を限定する」という条件を加えると、「当該の情報が話し手の認識をこえて無条件に真であるとは限らない」という含みが生ずる。そのため、既定の事実ということにはならず、「きっと…のだ」くらいの意味あいになる。ちょうどこれと同じことが「ガヤ+ワ」にもおこっていると考えられるわけである。

「ガヤ+チャ」が知識表明を表したり、推量判断の「ガヤ+チャ」が「当該の可能性を想定すれば十分である」というニュアンスを有したりするのも、当該の情報が「既定の事実」扱いされているということから説明できよう。

当該の情報を「既定の事実」として扱うか「話し手の認識世界では真である情報」として扱うかという違い（「よ↓」はこのような違いに関与しない）は、「チャ」「ワ」が付加された文の機能の違いにも反映される。

まず、「pチャ」は、

- (54) pは「既定の事実」であり、文脈に存在する～pの可能性を排除しなければならぬ（排除すればよい）

ということ述べるために用いられる。「pガヤチャ」における「実はpだ」「pの可能性を想定すれば十分だ」というニュアンスも、「これまで～pということになっていたのをpに修正する」「～pの可能性を想定する必要はない」ということにほかならない。

これに対し、「pワ」は、

(55) 文脈に未導入の情報pを、まずは「話し手としてはpという認識でいる」という形で新規に導入し、その線で既成知識やその場の認識の調整をはかるために用いられる。例えば、「ワ」は、

- (56) a. アレ？ アンタ 背中ン ナンカ ツイトル {ワ／??チャ}。
(あれ、あなた、背中に何かついてますよ！)
b. (玄関のドアがあく音が聞こえた)

ア、ダッカ オイデタ {ワ／??チャ}。(あ、誰かいらしたよ！)

のように、「その場で認識・納得したことがらを聞き手に知らせる」場合に用いられることがあるが、この場合も「この情報は自分がこの場で真であると認識したことであって、聞き手をさしおいて既定の事実扱いしているということはない」という意味あいが生ずる。

また、

- (57) (料理を一口食べて)

ア、コリヤ ンマイ {ワ／??チャ}。(あ、これはうまいよ！)

のように、当該の情報が「話し手がその場で始めて気づいて納得した」情報の場合は「ワ」が用いられるが、

- (58) A: 頼んサカイ、手伝ッテマ。(頼むから、手伝ってよ！)
B: (しぶしぶ) ワカッタ {チャ／??ワ}。手伝ウ {チャ／??ワ}。
(わかったよ！。手伝うよ！)

のように「それまでの考えを曲げる」場合は「チャ」がふさわしい。

(59) (クサヤを食べたことがないAがクサヤのにおいをかいで)

A: コンナモン 食べレルガケ? (こんなもの、食べられるの?)

B: a. 食べレンコトナイチャ。(食べられないことはないよ!)

cf. 食べレンコトナイワ(イ(ネ))。(注6)

b. 食べレンコトナイワ。(食べられないことはないよ!)

(59a) (59b)はいずれも「食べられないことはない」という話し手の知識あるいは推論結果を聞き手に伝える文である。しかし、「チャ」を用いた(59a)は、「食べられるということは既定の事実である」あるいは「食べられると想定すれば十分である」として、聞き手の「食べられないのではないか」という疑いをうちけすよう説得する文であるが、「ワ」を用いた(59b)は、基本的に「私の経験では食べられないことはない」あるいは「私が見たかぎり食べられないことはない」ということを述べているだけで、特に聞き手を説得するというニュアンスはない。

(60) 患者: コナイダ ココ チョッコ ブツケテ、ソッカラ ナーン 痛ミ トレンガヤケド、骨ニ ヒビカナンカ イットルガンナイカ 思テ。

(この間ここをぶつけて、それから全然痛みがとれないんですが、骨にひびかかか入っているんじゃないかと思って)

医師: ソンナガ。チョッコ ミセテミッシャイ。

a. コレグライナラ、ナンドモナイチャ。

b. コレグライナラ、ナンドモナイワ。

(そうですか。ちょっと見せてみてください。これぐらいなら、大丈夫ですよ!)

「ワ」を用いた(60b)は、状況から客観的に判断するかぎりには「大丈夫だ」という判定がえられる、という感じである。(もっとも、「タブン ドモナイワ」というと「単なる個人的な見解」というニュアンスが生ずる。)一方、「チャ」を用いた(60a)は、「大丈夫ではない可能性を考える必要はない」として聞き手の不安を解消しようとする発話であり、口調によっては、「これくらい大丈夫、大丈夫」のように「事態を軽く見ている」というニュアンスも生ずる。

(61) A: (心配そうに) ウチノ子、ドコ イッタカ シラン?

(うちの子供、どこに行ったか知りませんか?)

B: a. 公園デ 遊ンデヤッタチャ。

b. 公園デ 遊ンデヤッタワ。(公園で遊んでおられましたよ!)

(61a) (61b)はいずれも「聞き手の子供が公園で遊んでいた」ということが報告されているが、「チャ」を用いた場合は、「そんなに心配しなくても…」というように、「危ないところにいるのではないか」という聞き手の不安を排除するというニュアンスが生ずる。一方、「ワ」を用いた(61b)は、話し手がその場で知識を検索した結果を提示するだけの文であり、場合によっては「そういえば…」という回想のニュアンスが生ずる。

(62) A: 井上サン、痛風ナガヤト。(井上さん、痛風なんだって)

B: a. ソーイヤ、イタソーナ 顔 シテヤッタチャ。

b. ソーイヤ、イタソーナ 顔 シテヤッタワ。

(そういえば、痛そうな顔をしておられたよ!)

「ワ」を用いた(62b)は、「痛風である」と言われれば話し手の中では一応それに関連して「痛そうな顔をしていた」ということが想起される(その結果「痛風である」の確かさは増す)、という意味あいを用いることができる。一方、「チャ」を用いた(62a)は「道理で…」に近い意味になる。つまり、話し手は、「痛風である」を既定の事実として認めるとともに、「その根拠としては記憶中の『痛そうな顔をしていた』という情報だけで十分である(他の記憶と関連づける必要はない)」としているわけである。

- 注1 高校卒業以降の言語経歴は以下のとおり。
18～23歳 仙台市、23～27歳 東京都（杉並区・目黒区）、27歳～ 千葉市（美浜区）
- 注2 「よ」の意味に関する最近の研究には、益岡(1991)、藤原(1991)、大曾(1991)、白川(1992)、蓮沼(1992)、田窪(1992)、金水(1992,1993)、メイナード(1993)などがある。
- 注3 この仮説は金水(1993)、蓮沼(1993)の次の説明を参考にしている。
・ヨの意味：当該の発話を関与的なものとして登録せよ。(金水1993)
・「よ」は話し手と聞き手の間の共通認識の形成を表す標識である。(蓮沼1992)
- 注4 富山方言と共通語では尊敬表現及び丁寧表現に関する感覚が多少異なる。本発表の主旨は終助詞の基本的な意味の分析にあるので、尊敬表現・丁寧表現の訳し方の正確さには特にこだわらずに、共通語・方言それぞれについて自然な表現になるようにした。
- 注5 「チャー」は同意要求を表す「ねえ」に相当する。(どちらかといえば女性語的。男性語的な表現は「ノー」)
・今日 寒イ {チャー/ノー}。(今日は寒いねえ)
この「チャー」とここでの考察対象である「チャ」とを関連づけることができるかどうかについては、別途検討が必要である。
- 注6 「ワ」には、ここでの考察対象である「ワ」(ワ1)のほかに、先行発話に対する異議申し立てを表す「ワイ(ネ)」の短縮形と考えられる「ワ」(ワ2)があり、後者は「チャ」と同じように用いることができる場合がある。
・A: コンナモン 食ベレルガケ?
B: 何 ユートルガ。食ベレンコトナイ {チャ/ワ2/ワイ/ワイネ}。
(何いってんの。食べられないことはないよ！)
・アレ? アンタ 背中ン ナンカ ツイトル {ワ1/??ワ2/??ワイ/??ワイネ}。

／主な参考文献／

- 井上 優(1993)「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」：命令文・依頼文を例に」『研究報告集14』国立国語研究所
- 大曾 美恵子(1991)「「でしよう」「よ」とイントネーション」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』1
- 太田 栄太郎(1970)『越中の方言』北日本新聞社
- 神尾 昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店
- 金水 敏(1992)「談話管理理論から見た「だろう」」『神戸大学文学部紀要』19
----- (1993)「言語研究の最新情報：日本語学」『言語』22-4
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞――用法と実例――』
- 下野 雅昭(1983)「富山県の方言」『講座方言学6：中部地方の方言』国書刊行会
- 白川 博之(1992)「終助詞「よ」の機能」『日本語教育』77
- 田窪 行則(1992)「談話管理の標識について」『文化言語学』三省堂
- 田野村 忠温(1990)『現代日本語の文法Ⅰ：「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 蓮沼 昭子(1992)「終助詞の複合形「よね」の用法と機能」『対照研究――発話マーカーについて』筑波大学つくば言語文化フォーラム
- 藤原 真理(1991)「助詞「よ」の用法と機能」『東北大学日本語学科論集』第1号
- 藤原 与一(1986)『方言文末詞(文末助詞)の研究(下)』春陽堂書店
- 益岡 隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 養原 良二(1992)『おらっっちゃらっっちゃの富山弁』北日本新聞社
- メイナード・K・泉子(1992)『会話分析』くろしお出版
- Sperber, D. and D. Wilson (1986) *Relevance*, Harvard University Press.
(邦訳：内田聖二他訳1993『関連性理論』研究社出版)

付記：本発表の内容は、日本語教育センター第一研究室平成5年度一般研究「日本語の対照言語学的研究：日本語方言のモダリティに関する準備的研究」における研究成果の一部である。